

連載寄稿

宮前ガバナンス11月号

子育てしやすい街・宮前区の実現に向けて！

待機児童対策に川崎・横浜が連携 川崎市議員 石田やすひろ

川崎市と横浜市が待機児童解消に向けての新たな取り組みとして「待機児童に関する連携協定」を締結しました。内容は、第1に、市境に保育所を共同整備し、宮前区や隣接する都筑区、青葉区など両市にいる児童の入所を促進、相乗効果による課題の解消を図ること

今年4月の待機児童数は全国で2番目の大幅減少となる前年比376人の減となりました。しかし、利用数の増加は1531人と、対策を上まわる勢いで推移し、依然として市内には62人の待機児童がいます。

川崎市では、昨年度だけで保育所の拡充等や川崎認定保育園の活用等の結果

特に、宮前区の待機児童数は16人で、市内最多となっています。保育定員数2650人に対して、就学前児童数は1万3485人、充足率は19.7%で7区中最低。市では現在、来年4月の開設に向けて保育所等の整備を進めています。



川崎市立大蔵中学校卒業、明治大学大学院（公共政策修士）修了、国会議員の秘書を経て1999年28歳初当選。現在4期目。子育て支援策の強化や区役所機能の強化を推進している。議会発言後は、必ず新聞や広報紙を作成し、その内容について積極的に市政報告を実施。

その他 ブログ等は

市議会議員 石田やすひろ

検索



馬絹神社の秋の例大祭で神輿をかつぎました。雨なんておかないし、威勢の良さに感動しました。

川崎市 横浜市 双方の目標は「待機児童ゼロ」にあります。これまでは、それぞれの市で独自の施策を進めてきましたが、今回のこの協定を契機に行政区域の垣根を越えて連携し、問題の解消を目指すことは、有効だと考えます。特に、待機児童数の多い宮前区では、選択肢が広がることにより、田園都市線の駅を中心とした、「働きやすい環境」にも寄与することになります。今後の新たな展開に期待し、議会においても、連携を後押しして参ります。